



田村市復興応援隊メンバー  
渡邊 奈保子さん

現在、田村市の復興・地域づくりを目指して活動している田村市復興応援隊。これまで地域にどのように入り活動してきたのか、応援隊メンバーの渡邊奈保子さんにインタビューしました。

## 住民本位の 地域づくりを目指す

**Q. 具体的にどんな活動を行っているのですか？**

A. 応援隊は地域の問題解決のサポートや、新しい取り組みを始める住民の方々の応援をしています。まず「生活支援」では、高齢者の生活の困りごとを聞いたり、雪かきや草刈りなどの直接的な支援を行ったりしています。また「情報発信」として、都路に特化した都路かわら版「いいね！みやこ

じ」を制作し、毎月発行しています。その中で都路の頑張っている住民を紹介するコーナーや、都路のイベント情報などを載せて都路町の全戸へ配布しています。さらに「新たな取り組み支援」としては、地域に憩いの場所を作りたい等といった「復興のタネ」構想を実現するためのサポートをしています。ボランティアや専門家を招いたり、地域の窓口の役割を担ったり、応援隊も一緒に考えたりすることで、より地域の力が少

しずつ上がっていくことを目指しています。大切にしていることは、私たちが主体となって地域を盛り上げ

るのではなく、住民本位の活動を支えていくことです。住民の方々が地域の可能性を信じて、楽しみながら暮らしていくことが、最大の地域活性化だと思っています。

**Q. 地域間の連携とは具体的にどのようなものですか**

A. 現在は都路町を中心に活動していますが、近隣の市町村でもさまざまな活動を行っている個人または団体が存在します。そういった方々と情報交換したり、交流を深めたりすることで、お互いの地域の共通の課題が見つかったりします。時

す。課題としては、同じ悩みを持つ地域や、市内外を問わず近隣の市町村との協働体制がしっかりしているとは言えないのではないかと感じています。地域には独自の歴史や良さが必ずあります。それに向き合い、誇りを持つことが大切な一歩だと思っています。

**Q. 応援隊の活動でどんなやりがいを感じますか？**

A. 住民の方と一緒に活動することが多いのですが、地域のことを教えてもらって同じような経験をするのができたり、少しでも自分たちがお役に立てているという瞬間があります。こういった住民の方との関わり



座談会で住民の方と意見交換

の中でやりがいを感じることも多いです。

**Q. ボランティア活動も実施しているということですが、どのような活動ですか？**

A. ボランティアを募集しての活動は平成25年10月から開始しました。ただお手伝いをするボランティアではなく、交流人口を増やすことを主な目的にしています。「田村市を知る」「住民と交流する」「魅力を発信する」という3つのテーマを大切にしてきました。今まで行った活動は、草刈りや雪かき・電気柵設置などの農業支援などを動かす活動のほか、地域住民の交流拠点を整備するお手伝いや郷土料理の体験、まちの魅力を再発見する「さとあるき」など地域活性につながる活動も行いました。これまで参加していただいた方は県内外から、のべ182人（平成26年8月現在）の方が田村市にいらっしやう、中にはリピーターとして参加してくださる方



都路灯まつりに参加した女子大生ボランティアと

も増えつつあります。今後もしろいろな企画を発案していく予定です。

**Q. 住民との関わりで見えてきた新たな取り組み「復興のタネ」とは？**

A. 地域の方たちと関わっていると、「こういう地域にしたい」「地域でやりたいことがある」という前向きな言葉を聞く機会も多くあります。そういった会話の中には「地域住民が気軽に集まれる場所を作りたい」という声や、「農産物の直売所を作りたい」「花の山を作りたい」など、さまざまなお声がありました。大小関わらず住民自身が課題に思っ

には地域を超えて共に活動を行うなど、補い合うことで地域一帯の活性化に寄与できると考えています。

**Q. 1年間都路に入ってみてどのような課題が見えましたか？**

A. まだまだ1年では見えたとは言えませんが、現在日本では過疎化に悩む地方が多数存在し、さまざまな取り組みが行われています。共通して言えることは、「無いものねだり」や「課題をそのまま放置」することは地域にとってマイナスになることがあるということです。

いること、やりたいと思っ  
ていることを聞き、一緒に  
考え、実現するお手伝いを  
しています。住民自身が元  
気になることはもちろん、  
取り組んだ結果、周りへも  
良い影響が広がっています。  
今後とも地域の方々の声を大  
事にして、地域資源を活用  
しながらサポートをしてい  
きたいと思っています。

**Q. 最後に、今後の応援隊の方向性を教えてください。**

A. この1年は都路町での活動に専念してきました。今後とも被災地支援という方針は変わりませんが、先ほど話したように地域間の連携が都路町をはじめ、他の地域にも大きな力になるものと考えています。応援隊よりも地域に密着して長く活動をしていってほしい。方々のアドバイスや協力を得ながら、交流を深め、地域全体が活性化していくよう、住民のみならず共に歩んでいける応援隊を目指します。